

埼玉県衛生研究所報

REPORT
OF THE

SAITAMA INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

第 14 号

昭和 55 年

埼玉県衛生研究所

No. 14 (1980)

目 次

1	沿 革	1
2	組織及び事務分掌	2
3	職 員	3
	(1) 職員の配置状況	3
	(2) 職員名簿	4
4	業務概要	6
	(1) 疫学部・病理細菌部	6
	(2) 化学部	10
	(3) 食品衛生部	11
	(4) 環境衛生部	14
5	総 説	16
6	調査研究報告	23
	(1) 両神村における肝炎の追跡調査(昭和54年)	23
	(2) 調理ペンによる <i>S. braenderu</i> P 集団下痢症	29
	(3) 埼玉県におけるサルモネラによる環境汚染	33
	(4) 昭和54年度におけるインフルエンザの血清疫学的調査研究	42
	(5) ウイルス性下痢症に関する調査研究	54
	(6) 生薬中の総水銀量について(Ⅲ)	61
	薬草とその生育土壌について	
	(7) 化粧品用タール色素の突然変異原性	65
	(8) ゼーマン原子吸光法による血中重金属の定量(希釈直接法と硝酸分解法との比較)	70
	(9) 有機塩素系農薬およびPCB等による母乳汚染疫学調査	73
	(10) 透析法による小麦粉中臭素酸カリウムの定量法について	79
	(11) カビ及びカビ毒に関する調査研究	82
	(12) 養殖食用淡水魚におけるサルモネラ汚染とその防止対策	
	第2報 養殖場および川魚料理店でのサルモネラ分布について	87
	(13) 弁当類の細菌学的汚染実態調査	93
	(14) 国内産食肉類由来の <i>Salmonella typhimurium</i> の生物型	
	一分布並びに分離培養後の変異について一	99
	(15) 各種水における発熱性物質の比較	102
	(16) 鯉の微生物と <i>Fluorescent Pseudomonas</i> の性状について	105
	(17) 浦和市内の学校食堂におけるクロコブリの生息調査	112
7	資 料	
	(1) 感染症情報管理事業に伴う溶血レンサ球菌検査状況(昭和54年度)第1報	115
	(2) 埼玉県における腸管系法定伝染病菌の検出状況(1979年)	118
	(3) 埼玉県の海外旅行者の腸管系病原菌(1979年)	121
	(4) 両神村における肝炎の追跡調査(昭和47年~53年)	126
	(5) 埼玉県内の飲料水の水質 昭和54年度	130
	(6) 食品衛生検査の結果について(I)	134
	(7) 食品衛生検査の結果について(Ⅲ)	161
	(8) 埼玉県内のし尿処理場放流水の水質(Ⅱ)一昭和54年度一	173
	(9) 埼玉県内のと畜場放流水の水質について(1957年~1973年)	174
	(10) 埼玉県における産業廃棄物について(1972年~1976年) I	176
	一 概 況 一	
	(11) 埼玉県における産業廃棄物について(1972年~1976年) II	180

一汚泥状産業廃棄物一

(12)	埼玉県における産業廃棄物について(1972年~1976年)Ⅲ 一固形状ならびに液状産業廃棄物一	191
(13)	埼玉県における産業廃棄物について(1972年~1976年)Ⅳ 一埋立てにともなり土壌や浸出水の汚染一	195
(14)	埼玉県における産業廃棄物特定施設の実態調査について(1980年)	201

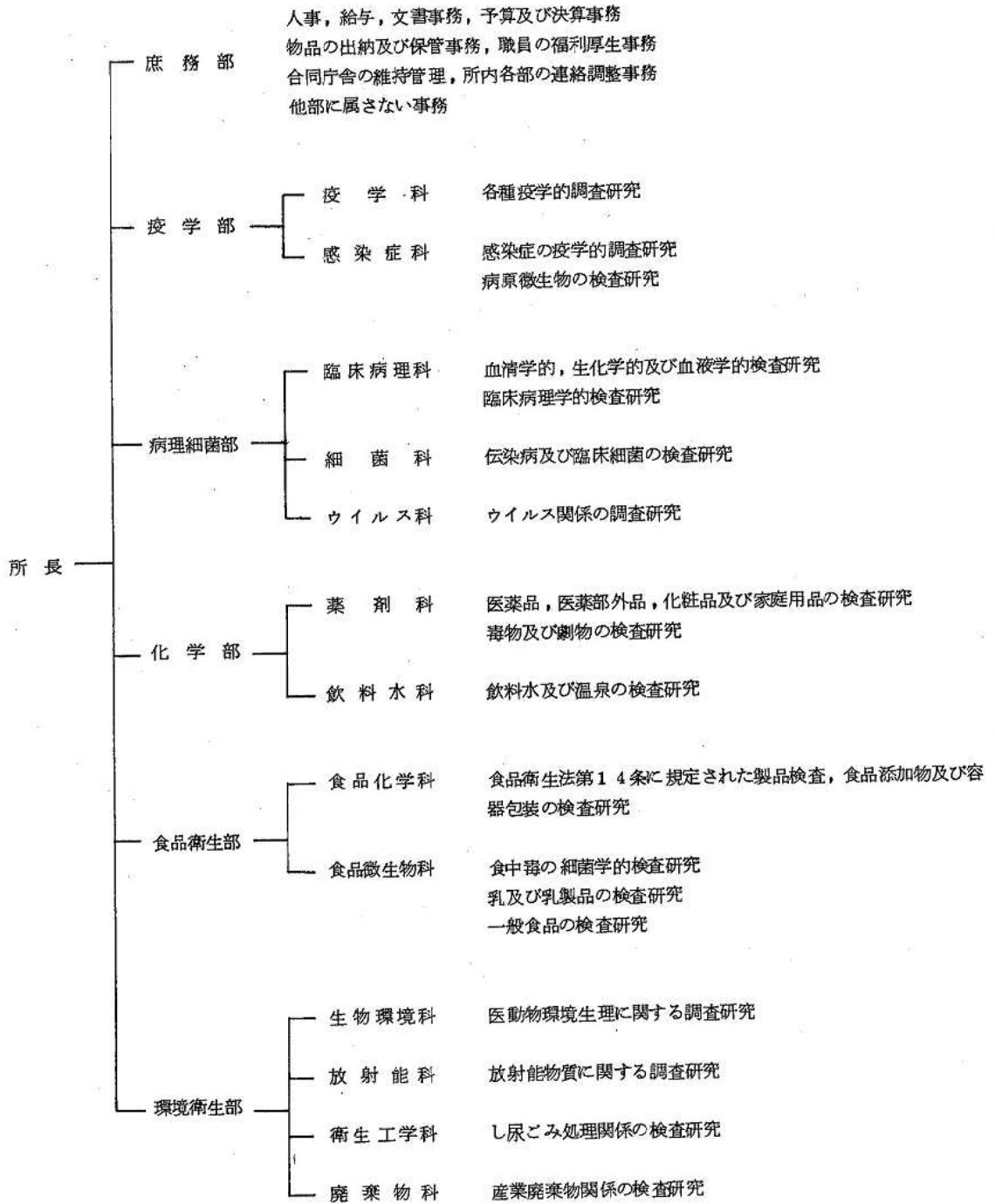
8 紹 介

(1)	Group B streptococciとその感染症	208
(2)	B群溶血レンサ球菌の細菌学的疫学的研究	208
(3)	B群溶血レンサ球菌の群別および型別法について	209
(4)	最近人から分離されたB群溶血レンサ球菌の型別分布	209
(5)	環境から分離されるサルモネラ	210
(6)	サルモネラによる集団下痢症	210
(7)	学校給食センターに起因するS. enteritidisの集団下痢症	210
(8)	海外旅行者の腸管系病原菌	211
(9)	1978年埼玉県内で分離されたサルモネラ菌型と薬剤耐性	211
(10)	両神村における肝炎の追跡調査(昭和54年)	212
(11)	成人病検診におけるHDL-コレステロール値	212
(12)	白色便性下痢症の検討	213
(13)	H ₃ N ₂ とH ₁ N ₁ 型間のheterotypic immunityに関する血清疫学的調査	213
(14)	昭和54年度のインフルエンザ流行予測	213
(15)	Rotavirus感染症に関するウイルス学的及び血清学的調査	214
(16)	ヒト血清中のB型インフルエンザウイルスに対するHI抗体の特性について	214
(17)	生薬中の重金属	214
(18)	生薬の成分に関する研究(第1報) 修復試験及び復帰変異試験(I)	215
(19)	テトラサイクリンのCu ²⁺ への配位	215
(20)	Adenine N(3)誘導体におけるプロトネーション	216
(21)	カフェインによるMdxide反応の呈色機構について	216
(22)	ハロホルムの生成について	216
(23)	埼玉県内の地下水の水質	217
(24)	GAS CHROMATOGRAPHIC DETERMINATION OF NITRITE IN FOODS AS TRIMETHYLSILYL DERIVATIVE OF 1H-BENZOTRIAZOLE	217
(25)	ガスクロマトグラフィによる亜硝酸の定量法について	217
(26)	ガスクロマトグラフィによる3・5-Dinitro-o-toluamide(Zoalene)の分析法	218
(27)	ガスクロマトグラフィによる畜産食品中の残留サルファ剤の分析	218
(28)	埼玉県の麦類を汚染するFusariumとそのトリコチセン生産性について	218
(29)	Fusarium-toxins生産菌の地域的分布差	219
(30)	ECD-ガスクロマトグラフィによるButenolideの定量	219
(31)	養殖淡水魚のサルモネラ汚染とその防止対策に関する研究 養殖池水と淡水魚との関連について	220
(32)	養殖淡水魚のサルモネラ汚染とその防止対策に関する研究 第2報 魚病薬に対する分離サルモネラの感受性	220
(33)	Duguidによる食肉由来Salmonella typhimuriumの生物型別について	220
(34)	血清学的方法によるアキアカネ幼虫のツナハマダラ幼虫に対する捕食率の推定	221
(35)	亜硝酸イオンの定量法の検討	221

1. 沿革

年 月 日	概 要	備 考
昭和22年	衛生部の設置と同時に、警察部所管として明治30年に発足した細菌検査所を衛生部の所管とした	
昭和25年10月	大宮市浅間町に食品衛生試験所を新設し、食品、環境、衛生獣医などに関する試験検査業務を開始した。	
昭和28年 2月	大宮市吉敷町1丁目に庁舎を新築し、細菌検査所と食品衛生試験所の業務を合併して、埼玉県衛生研究所として試験・検査・研究業務を行うことになった。 衛生研究所には、庶務課、病理細菌部（3科編成）、化学部（2科編成）、衛生獣医部（2科編成）及び生活科学部（2科編成）を設置した。	庁舎所在地 大宮市吉敷町1丁目124番地
昭和28年12月	開所式を行った。	
昭和32年11月	放射能研究室を新築増設した。	
昭和37年 9月	ウイルス研究室を新築増設した。	
昭和40年 5月 1日	病理細菌部に3科、化学部に3科、疫学部2科及び環境衛生部に3科を設置し、1課4部（11科）制とした。	
昭和43年11月 1日	公害研究部（2科）を設置し、1課5部（13科）制とした。	
昭和45年10月	公害センターの設置により公害研究部を廃止し、5部（11科）制とした。	
昭和47年 4月	浦和市上大久保に新庁舎を新築した。	庁舎所在地 浦和市上大久保 639番地 1
昭和47年 5月16日	大宮庁舎から移転し、業務を開始した。	
昭和47年 5月26日	開所式を行った。	
昭和48年 7月	食品衛生部（2科）を設置し、化学部を2科とし、6部（12科）制とした。	
昭和49年 5月29日	衛生研究所敷地内に動物舎を新築した。	
昭和50年 5月 1日	組織改正に伴い従来の科名を県民になじみやすいように科名変更を行った。	
昭和52年 4月 1日	環境衛生部に廃棄物科を新設し、6部（13科）制とした。	
昭和53年 3月	検査棟（放射能研究室）新築増設した。	

2. 組織及び事務分掌



3. 職 員

(1) 職員の配置状況

(昭和55年10月1日現在)

職種 区分 部 名	事 務	技 術	そ の 他	計
所 長		1		1
部 長	1	4		5
科 長		7		7
主 任 研 究 員		3		3
主 任 (事)	2			2
主 任 (技)		19		20
主 任 (技能)			2	2
主 事	2			2
技 師		15		15
技 師 (技能)			4	4
計	5	49	6	60
部 別 内 訳		所 長		1
庶 務 部	5		3	8
疫 学 部		4		4
病 理 細 菌 部		8	2	10
化 学 部		10		10
食 品 衛 生 部		13	2	15
環 境 衛 生 部		11	1	12
計	5	47	8	60

(2) 職員名簿

(昭和55年10月1日現在)

部名	科名	職名	氏名	事務分担	備考
		所長	岡田 正次郎	所内統括	医師
庶務部		部長	細井 昶	部内統括, 人事, 財産管理事務	
		主任(事)	笠川 和子	決算, 経理, 物品事務	
		主任(技)	松本 茂男	庁用車運転	
		主任(事)	黒米 吉信	予算, 物品(備品)事務	
		主事	石川 佐知子	給与, 福利厚生事務	
		主事	小暮 正男	経理, 文書, 旅費事務	
		技師 技師(技能)	和田 義信 小林 敏雄	庁舎整理, 動物飼育管理 庁舎整理, 動物飼育管理	
疫学部	疫学科	主任研究員	唐戸 哲哉	疫学的調査研究	医師
		主任研究員	中村 雅隆	環境汚染の生物学的調査研究	
	感染症科	技師	松岡 正	細菌学的, 血清学的検査研究	臨床検査技師
		技師	桐ヶ谷 まり子	細菌学的, 血清学的検査研究	衛生検査技師
病理細菌部		部長	奥山 雄介	部内統括, 細菌学的検査 病理細菌調査研究	獣医師
	臨床病理科	科長	田中 厚子	生化学的検査, 病理細菌調査研究	薬剤師
		技師	河橋 幸恵	生化学的検査, 病理細菌調査研究	薬剤師
		技師	野本 かほる	生化学的検査, 病理細菌調査研究	臨床検査技師
	細菌科	主任研究員	大関 瑤子	細菌学的検査研究	
		主任(技)	首藤 栄治	細菌学的検査研究	獣医師
		技師(技能)	島田 サト	検査器具洗浄	
	ウイルス科	科長	村尾 美代子	科内統括, ウイルス学的検査研究	薬剤師
技師 技師(技能)		戸谷 和男	ウイルス学的検査研究	臨床検査技師	
		酒井 正子	検査器具洗浄		
化学部		部長	興津 知明	部内統括, 医薬品等検査研究 水質検査研究	
	薬剤科	科長	森本 功	科内統括, 医薬品等検査研究	薬剤師
		主任(技)	石野 正蔵	医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師
		技師	小山 又次郎	医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師
		技師	野坂 富雄	医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師
		技師	渡辺 富士雄	医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師
	飲料水科	科長	鈴木 敏正	科内統括, 水質検査研究	
		主任(技)	松田 勝彦	水質検査研究	薬剤師
主任(技)		広瀬 義文	水質検査研究	薬剤師	
		主任(技)	鈴木 章	水質検査研究	
		部長	渡辺 昭宣	部内統括, 食品等細菌学的検査研究	獣医師
		科長	能勢 憲英	科内統括, 食品化学検査研究	薬剤師

部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考
食品衛生部	食品化学科	主任（技）	星野庸二	食品汚染物質検査研究	薬剤師
		主任（技）	田中章男	食品添加物検査研究	
		主任（技）	山田文子	食品添加物検査研究	
		主任（技）	菊池好則	食品汚染物質検査研究	
		技 師	清水博正	食品添加物検査研究	
		技 師	斉藤茂雄	食品添加物検査研究	
	食品微生物科	技師（技能）	土屋光子	検査器具洗浄	獣医師
		科 長	徳丸雅一	科内統括，食品汚染細菌検査研究	
		主任（技）	池内俱子	乳，乳製品検査研究	
		主任（技）	栗栖誠	食品汚染細菌検査研究	
環境衛生部	生物環境科	主任（技）	正木宏幸	乳，乳製品検査研究	獣医師
		主任（技）	柳川敬子	食品汚染検査研究	
		主任（技能）	大村ふみ江	検査器具洗浄	
	放射能科	部 長	藤本義典	部内統括	薬剤師
		主任（技）	武井伸一	寄生虫原虫等検査研究	
		技 師	高岡正敏	寄生虫原虫等検査研究	
		技 師	浦辺研一	衛生害虫昆虫等検査研究	
		主任（技）	中沢清明	放射能測定，分析調査	
		主任（技）	大沢尚	放射能測定，分析調査	
	衛生工学科	主任（技）	内田文夫	生活排水の検査研究	薬剤師
技 師		吉田江理	生活排水の検査研究		
主任（技能）		稲垣礼子	検査器具洗浄		
科 長		小林進	科内統括，産業廃棄物の検査研究		
廃棄物科	主任（技）	丹野幹雄	産業廃棄物の検査研究	薬剤師	
	技 師	小野雄策	産業廃棄物の検査研究		

埼玉県衛生研究所報投稿規定

(51年9月改正)

1 所報は、埼玉県衛生研究所で行った調査、研究の業績を掲載する。投稿は、本所職員に限る。ただし、本所職員以外の共著者がある場合には、所属を*印を用い欄外に入れる。

例 * 埼玉県衛生研究所
** 埼玉県中央保健所

2 原稿は、所定の原稿用紙A 4判(20×20字)に横書きで記載する。枚数は、総説40枚、調査研究30枚、資料10枚、紹介1枚とする。ただし、規定枚数は、表、図及び写真を含む。

3 原稿は、所属部長を経て編集委員に提出する。なお、提出された論文については、編集委員会で検討を加える。

4 原稿には、表題と著者名(和文)をつけ、イタリック体となる字の下には _____ 線をつける。(例: *Bovie*)

5 文章中の句読点(、。),()には必ず一画を与え、- (ハイフン)は区画の中に明瞭に記入する。

6 数字は、すべてアラビア数字を用い、原稿は、原則として当用漢字、新仮名使用により記載する。

7 度量衡の単位は、m, cm, mm, μm , nm(10^{-9}m); l, ml; kg, g, mg, μg , ng, pg(10^{-12}g)などを用いる。

8 表及び図の原稿は、別に専用原稿用紙または、同型の紙に貼りつけ本文の後に綴りあわせる。図は、A 4判の大きさの平滑な白紙または、青色グラフ用紙に黒インキで書く。図は、原則的には著者のものを用い(図及び写真は、そのまま印刷される予定)、図中の字は、活字を使用することもできる。図の大きさに希望があるときは、大体の大きさを指定する。表中の線は、原則的には著者の希望に従う。表及び図に関する注釈は、本文中には入れない。

例; 表2 分離菌株の薬剤耐性(表の上の中央に記載する。)

図3 野菜、果実中の残留農薬(図の下の中央に記載する。)

Table /及び (Fig. 3)などの英字を用いる場合は、表及び図全体についても英字を用い、英文または、レタリングを使用すること。表及び図の入れる位置は、本文中の右欄外に矢印(←表1)で指定する。

9 文献は、下記のように著者名、年号(西暦)、表題、雑誌名、巻、(号)、頁(例: 125 - 130)の順に記載する。ただし、号は雑誌の頁が通し番号のものは除く。

例 1) 佃 信夫, 天野慶之(1972): エビ類の黒変

防止に対する亜硫酸塩の効果とその残存量について、東海区水産研究所報告, 72, 9-19.

2) Mowbray J. F. (1963): Ability of large doses of an alpha 2 plasma protein fraction to inhibit antibody production. Immunology, 6, 217-225.

10 引用文献は、1), 2), 3)のごとく一画を与え右肩に示し、最後に一括して列記する。

11 脚注は、*印を用い欄外に記入する。

12 引用文献は、20以下とする。

13 論文(調査研究)の形式

はじめに、方法(材料及び方法)、成績(あるいは、成績及び考察)、考察、要約、謝辞、文献、の順に統一する。(はじめに等の見出しは、原稿の真中の上下一行をあけて書く)。

14 衛生研究所報の内容形式

内容の順序

(1) 業務概要

内容形式は自由とする。

(2) 総説

印刷物として未発表のもので、新知見を含む論文とする。

(3) 調査研究

内容及び形式は、学会誌における原著に準ずる。

(4) 資料

調査資料、統計、ノート、短報、などを含む。

(5) 紹介

過去一年間に他誌発表論文及び学会発表の内容紹介。

形式は、要旨が400字以内とし、別紙に氏名及び発表雑誌名(略号のあるものは略号を記入)、年号(西暦)、巻、頁を氏名の下段に記入する。

学会発表のみの場合は、本文の最後に発表学会名と(年号)及び場所を明示する。

例 他誌発表の場合

題名

氏名

日本公衛誌(1974): 21, (10)
123-129.

要旨(400字以内)

学会発表の場合

演 題

氏 名

要 旨（400字以内）

要旨の最後に、日本食品衛生学会第
27回学術講演会（1974）：東京

15 提出論文などの編集委員会での取扱いについて

- (1) 校正時の原稿の改変は認めない。どうしても必要なものは、正誤表による。
- (2) 初校及び二校は著者、三校（以後）は編集委員が行う。
- (3) 編集委員は、次長を委員長とし、各部代表委員で構成する。

埼玉県衛生研究所報

第 14 号

昭和 56 年 2 月印刷

昭和 56 年 2 月発行

編集及び発行所 埼玉県衛生研究所
浦和市上大久保東 639-1 〒338

電話 浦和 0488-53-6121

印刷所 若葉印刷有限会社

鴻巣市松原 4-6-38 〒365

電話 鴻巣 0485-41-5235